

国際文化フォーラム通信

no.100

謎ときTJF



特集

10×10+10...

公益財団法人
国際文化フォーラム
THE JAPAN FORUM
日本国際文化交流財団
일본국제문화교류재단

私の、10

8



Fight!

実は私、こんなでした

中学時代の体育祭：みんなの憧れ、体育祭応援団として、当日奮闘しているワンショットです。日焼けしすぎて、知人に「真っ黒!」と笑われることもしばしば。今となっては奮闘した証拠だと思えます。当時、写真に落書きをするのが流行っていました。自分で自分にコメントなんて、今見ると恥ずかしいですね。

びっくりした出来事

先日、私のキャビネットの奥から、「平成6年」の日付が書かれた書類が出てきました。19年間挟まったままだったようです。19年前……。当時私は4歳。TJFの歴史に少しふれられた気がして嬉しかったです。

4

私の偏愛

ミンティアのソーダ味のやつ。
これがないと生きていけないかも。

5

〇〇なら負けません!

母との仲良しさは、誰にも負けない気がします。よく、「休みの日は何してたの?」と聞かれますが、大抵は母と家で遊んでいます。母と2人で、ごろごろしたりきゃっさしたり。「こんなこと、他の母子でもするのかなあ」とたまに母と話になるほど。

9

誰にもいえなかった失敗

先輩がアメリカのお土産でコーヒー豆を買ってきてくださり、「コーヒーミルで挽いて各々どうぞ」と言われました。比較的時間があまる私は、皆さんに挽きたてコーヒーを、と思って、小分けになった1袋を挽き、いつものコーヒーメーカーにその小分けの1袋分を入れ、いつもの通りのお水7杯分を入れ、スイッチオン。なんと、うすーいコーヒーができてしまったのです。小分けになっていたお豆は、「1杯分」の量だと知らず、その7倍の水で作ってしまったのでした。砂糖とミルクを入れる私は、飲んでも気づかなかったのですが……。



6

事務局長になったら、これをやります!

私が事務局長になるころには、自然とSOHOになっているのでは……(笑)。

7

夏

漢字一文字で表すと…

夏生まれ(6月後半なので初夏?)、なのに夏に減法弱い(ばてちゃう)、でも夏が好き(活気あふれる街の雰囲気とか)、そして何よりお笑いコンビの“さまぁ〜ず”が大好きなので。



10



マイ唐がらし
辛いもの大好きです

のベスト1

10×10+10...

事務局長以下10人のスタッフ（プラス理事長と常務理事）が10のベスト1を告白します。



宮川 咲



私が書いた記事

1

まだ学生のとき（といっても数ヵ月前まで学生でした）に、TJFのスタッフの方に「留学の体験談を書いて」と言われて書いた最初の記事です。中国の上海に留学していた私は、留学した理由、感じたことや体験したことなどを書かせていただきました。それから縁あってTJFに入り、TJFが共催で行っている千葉県中国語土曜日講座のことを書いたのが職員として最初の記事です。1年も経たない間に、学生としての記事と、職員としての記事とを書かせていただき、嬉しくもまた感慨深かったです。

サイコーのオフィスランチ

今のところ、どれもおいしいのですが、初日に、先輩に講談社の社食に連れてってもらったランチでしょうか。初めての通勤、初めての仕事、初めての講談社、初めての社員食堂、初めてのランチ！メニューも食材もはっきり覚えています。野菜のポトフの定食。にんじん、じゃがいも、玉葱、豚肉。味は薄め。なにより緊張をほぐそうと声をかけてくださった先輩の温かさが今でも思い出されます。

2

3

涙したあの日

12月末にTJFが開催する「日韓の中高校生交流プログラム」に韓国・韓国語・K-POPに興味をもつ日本の生徒さんが多く応募してくれました。事務作業をお手伝いするなかで、生徒さんの参加したい気持ちや韓国への熱意などを拝見しました。実は私は高校生のとき、TJFが企画運営した第1回「漢語橋：日本の高校生サマーキャンプ」に参加していました。当時の私と、現在の高校生の気持ちがダブってしまって、懸命に送ってくれる生徒さんの思いを感じるたび、心に来るものがありました。ひとりで応募動機を熟読していたら、泣いてたかもなあ。

沈 炫 暎



私の偏愛

郵便局への愛。手紙はもらうのも書くのも大好きです。手紙にはその人の素や個性が表れるからです。郵便局の窓口にもテンション上がりますね。新発売の切手を眺めたり、誰かへ送る荷物を抱えて順番を待っている人たちの姿や、消印を押すスタンプの音……。SNSやメッセージアプリで、人と人が簡単に繋がる時代ですが、仲良しの友達には今でも手紙を出します。



5



実は私、こんなでした

高校卒業式のあと、教室で大親友の子と撮った写真です。黒板の左側には先生が書いた「祝・卒業」の文字と、右側には自分たちの名前が見えます。韓国の大学に入ることが決まっていたのに、このときも頭の中では「何が何でも日本の大学に行く」と留学への野望を燃やしていたのです。



8



3

涙したあの日

日本に来た初日の夜。空港に降り立ったときはとにかくワクワクしていて、「ついにこの日が来た〜!!」という感じでした。しかしその夜、寮について電気を消し布団に入った瞬間、涙がポロリ……。家族のもとを離れ一人になった寂しさ、これから自分の身に何が起きるんだろう……。という不安が襲ってきたのです。「大丈夫、私はできる」とつぶやいて無理やり自分を寝かせていましたね。

10

事務局長になったら、これをやります!

フォーラムの紹介動画を作成し、YouTubeにアップしたいです。



2

サイコーのオフィ斯拉ンチ

社会人1年目に出張で訪れた名古屋で食べた、ひつまぶし定食です。二日間、土地勘の全くない名古屋でお客さんのところを回り、東京に帰る日でした。心も体もボロボロの状態……。駅近くの高島屋で、一人でゆっくり、ひつまぶしを頂きました。味もちろん最高だったんですが、人に会い過ぎたせいか一人になったことへの喜びの方が若干大きかった気がします。



びっくりした出来事

内定が決まってから常務理事の内藤さんと、事務局長の水口さんとおこなった面談です。行く前は、入社に必要な書類の説明を受け15分程度で終わる、事務的な話し合いを想像していました。しかし実際に行ってみると、テーブルには温かいスープとサンドイッチが並び、とてもアットホームな感じ。最後はなんと、3人でビールで乾杯！気がついたら終電の時間になっていて帰りは少し焦りましたが(笑)、贅沢な時間でした。

4

誰にもいえなかった失敗

帰省のとき、羽田空港と成田空港を間違えたことです。

朝7時の飛行機のため5時に成田空港に着くと、真っ暗。静まり返った空港には警備員さんの姿だけ。「成田から飛行機が飛ぶのは一番早くて8時台ですよ。羽田の間違いではないですか?」と言われました。ウソでしょ……。すぐにチケットを確認したら、「げー! 本当だ……。」その後、タクシーを飛ばして羽田へ向かい、何とか飛行機には乗れたのですが、タクシー代がなんと33,000円。東京-ソウル往復のチケットがもう一枚買える金額だったのです。みなさんもくれぐれも気をつけてください。というか、まず誰もこんな間違いしないですかね(笑)。

6

私が書いた記事

大学4年生のとき、学科の代表として大学の雑誌に載ることに。そのときに書いた文章が、人生初の活字になった記事です。日本語に初めて触れたときから、留学を決めたきっかけ、そして大学での勉強、将来の夢まで……。とにかくのびのびと書いた文章です。初心を取り戻したいときに読み返しています。

1

漢字一文字で表すと…

ブルース・リーは映画「燃えよ、ドラゴン」で、頭でっかちになって武術を学ぼうとする少年にこう言います。「Don't think, FEEL!」私も頭よりは感覚を研ぎ澄まして、周りからたくさんのかんじ取り、そこから学べる人間になりたいと思っています。

7



〇〇なら負けません!

声の大きさ。
内緒話には向いて
いません(笑)。

9

パッピンス：牛乳でつくった氷の上に小豆がたっぷり。



渡邊 幸治

理事長



私が書いた記事

1

『事業報告2005-2006』に書いたあいさつ文です。現在も良好とはいえませんが、その当時も日中、日韓関係は険悪な状態にありました。そんなとき、知人がこんな話をしてくれました。ホテルのレストランで話の相手をしていた小学1、2年生の少女が突然、真顔で「日本人は鬼子と教えられたけど、おじちゃんはそのじゃないのね」といって立ち去ったと。これこそが草の根外交の原点だと思い、このようなふれあい、出会いを積み重ねることが重要だと思いました。

涙したあの日

TJF設立20周年のレセプションには、言語教育や国際交流などで活躍されている方をはじめ、実にさまざまな分野の方々に出席していただきました。皆さまから発せられる熱気やTJFへの期待を感じ、TJFは小さいながらもパイオニア的な役割を果たしてきたのだと、いたく感動したことを覚えています。



3

4

びっくりした出来事

2012年3月3日に開かれた『外国語学習のめやす』の完成記念シンポジウムに非常に多くの方たちに集まっていたことです。私も完成したときに読みましたが、相当難解な説明でよくわからない。これをどれだけ多くの人が支持してくれるのか、シンポジウムには数十人しか集まらないのではないかと実は少々心配していたのです。それが、開会のあいさつをせよということで、皆さんの前に立ったら、ぎっしり200人を超えて会場が満員なわけです。率直に言って、これには本当に驚きました。

7

漢字一文字で表すと…

組織ではやはり「和」を尊ぶことが大切です。常にめざしてきたことです。

和

私の偏愛

リュックサックを愛用しています。2005年に北京に留学したときに重たい教科書類を持ち歩くことになりました。周りの学生を見てみると、リュックサックを利用しています。これはいい、と購入しました。使ってみると、非常に軽くて便利なわけですよ。今までなぜ使わなかったんだろうと思いましたね。今、愛用しているのは三つ目。もちろん背広にもコートにもリュックです。妻は、みっともないからやめろと最初のうちは言っていたのですが、いまではあきらめたようです。この間モーニングを着る機会がありました。さすがにこのときだけはリュックはやめておきました(笑)。



5

〇〇なら負けません!

変な人といわれる人とうまく付き合うこと。組織からはみ出してしまうような人、無口でとっつきにくいといわれているような人とうまく付き合って、組織のなかでその人が生きるように組織の和にいれることに長けていると思います。

9

誰にもいえなかった失敗

北京大学で4ヵ月、一所懸命勉強した中国語をその後活かす機会がないこと。というより、中国語を使う勇気が、からきしないことだろうと思います。

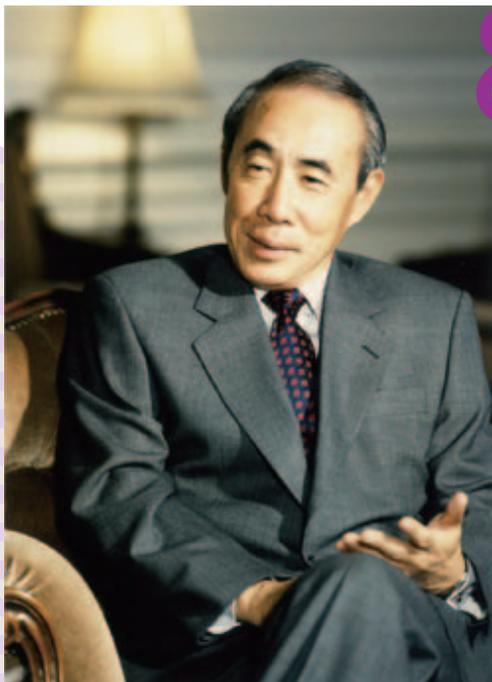
6

事務局長になったら、これをやります!

ロシア人の高校生の日本語教育促進事業!そして、次に日本の高校生のロシア語教育促進事業をやりたいです。ロシアは隣国であり、一般庶民の日本への関心は非常に高いといわれます。大使として1994年から97年までロシアに在勤しましたが、そのときからその熱を感じています。

10

8



実は私、こんなでした

在外公館にいたときの写真です。外交官は天職だったと思っています。生まれ変わっても、外交官でありたいという気持ちが強いです。

サイコーのオフィスランチ

西新宿のオフィスに、北京大学の留学生10人を招いて、いっしょに食べたお弁当です。2005年に4ヵ月ほど北京大学国際関係学院に中国語習得のため留学していました。年齢70を過ぎての留学でしたが、お隣の国を改めてより深く理解したいと、中国語の四声と簡体字と格闘の日々でした。このとき大変お世話になったのがK助教授でした。入学の手続きからアパート探しまでしてくれました。そのKさんの教え子たちが北京大学と姉妹関係にある早稲田大学に集団留学することを知って、帰国後に招いたというわけです。非常に懐かしい思い出です。

2



渡邊幸治
日本経済新聞社(共著)

誰にもいえなかった失敗

こんなにプロ集団だったとは知らず、就任後初めての会議の自己紹介を、韓国語でしたこと。恥ずかしい。ドイツ語にすればよかった……………それも南部訛りでやれば完璧だったはず。

6

1

私を書いた記事

當作先生の著書『NIPPON3.0の処方箋』の帯に書いたコピー。どんなことばかは、本屋さんで見てください。



内藤裕之

常務理事



5

私の偏愛

☆旅行や出張で出かけた国の紙幣やコインのきれいなものを全種類集める。特に最小額が大好きで、貳角紙幣や各国のユーロコインを集めては、喜んでます。ユーロは紙幣は一緒ですが、コインは国によって、裏面が違うのです。

☆市場やデパ地下でその土地にしか出回らない、知らない食材を見つける。特に魚介類とキノコ。オシツケ、オジサン、八角、キュウリウオ、ヅ蟹、栗蟹、海茸(キノコではありません。貝です)、イタヤガイ、夜光貝、アミカサタケ、ラクヨウ、トラマキタケ、クリタケ、ヤマブシタケ、香茸……。

☆海外旅行した国の数は、独逸、澳太利、瑞西、盧森堡、葡萄牙、英吉利、仏蘭西、伊太利亚、丁抹、阿蘭陀、瑞典、諾威、芬蘭士、拉脱維亞、蘇聯、露西亞、洪牙利、土耳其、韓国、中国、香港、台湾、加奈陀、瓜姆島。24カ国・地域を数える。独逸語圏を旅した回数は覚えていないくらいなのに、亜米利加に行ったことは、瓜姆島以外一度もありません。布哇すらないのです。瓜姆島はかつては信託統治領で、今では準州となっていますが、亜米利加と言うには、あまりにも、ですよ。

☆はくつる、ゆうづる、はつかり、あけぼの、北陸、出雲、紀伊、銀河、あさかぜ、さくら、みずほ、富士、はやぶさ、あかつき、なは、彗星、明星、金星。みんな廃止されてしまいましたが、懐かしい夜行寝台列車です。乗ることが出来なかったものも、ヘッドマークの撮影だけはしました。それぞれ東北本線經由青森行・常磐線經由青森・秋田・金沢・浜田・紀伊勝浦・大阪・博多/下関・長崎/佐世保・熊本・日豊本線經由西鹿兒島・鹿兒島本線經由西鹿兒島。あかつきより後の列車は、東海道新幹線から乗り継ぐブルートレインや電車特急の寝台車で、新大阪駅から、あかつきとなはは西鹿兒島、彗星は宮崎、明星は熊本、金星は名古屋駅から博多行きの変り種でした。





3

涙したあの日

「SEOULでダンス・ダンス・ダンス」の参加者から、御礼のコルクボードを帰国後の報告会で貰ったとき。

2

サイコーのオフィ斯拉ンチ

フォーラムに着任して、初めて業務執行理事と事務局長と食べた音羽のランチ。猛烈な酷暑日だったので、3人のうちの誰言うともなく、ビール付きに……。

午後からのその日の仕事は、諸規則のチェック。就業規則第13条を見ていて、ドキッ。第一項には、こうありました。「次の各号に該当する者に対しては、出勤を停止し、または退勤を命ずることがある。(1) 酒気を帯びるなど、風紀秩序を乱す恐れのある者」ワオッ……。

謝

漢字一文字で表すと…

謝罪の謝になるか、感謝される謝になるか、神のみぞ知る、です。

7

4

びっくりした出来事

実は教育フォーラムだったこと。

9

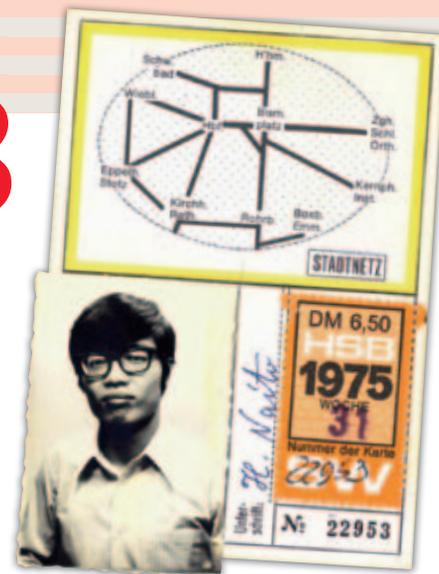
○○なら負けません!

知らない街で、美味しい店を見つける勘、なら負けません。かつては山手線各駅すべてに、一軒は、お気に入りの飲み屋がありました。いまスマホの電話帳には、お気に入りの店が、159軒。フランクフルト、ミュンヘン、パリを含め、地方に行ったら行きたい好きな店が、180軒入っています。これが多いのか少ないのかはわかりませんが、ほとんどは、足で稼いで、見つけた店です。構えと、お品書きから、手応えのありそうな店を選んで、チャレンジした成果です。

8

実は私、 こんなでした

短期で外国人語学コースに通っていたときの独・マンハイム市電の定期。こんな時代もあったんです。



10

事務局長になったら、 これをやります!

合宿。とことんみんなで語り明かしてみたいという、青い考えです。

水口景子

事務局長



★



★

20
年目

9

〇〇なら負けません!

日本の高校の中国語教育のことならお任せ。頭の中にあるコンピュータがお答えします。不來方高校や柴島高校もすらすら読めます。会ったことのある中国語教師は300人を下りません(ちょっと大げさ?)。先生方にはブルドーザーなどといわれていますが、私はずっとサポーターでいると思っています。

誰にもいえなかった失敗

1996年冬に、中国の東北部の3都市に出張しました。最初の大連の宴会で出てきたのが白酒、アルコール度数38度の蒸留酒です。ここで飲んだのは小さなグラスに、一、二杯。次の瀋陽ではもう少し多くて三、四杯。そして最後は吉林省延辺朝鮮族自治州の州都延吉での宴会でした。

私を含めて11人、円卓に座った人たちが勤め上手なこと。結局テーブルの人全員と乾杯し……。気がついたらホテルの天井が見えました。楽しい宴会の後半のことはまったく覚えておらず、飲みすぎで意識を失うなんて初めてのことでした。私の呼び名はその日から「酒口」に変わりました。翌日、飲みすぎには気をつけようと心に誓いましたが、今でも記憶があやふやなことが時々あります(笑)。

6



びっくりした出来事

フォーラムが調査を委託した研究所にいたことからです。中間報告を提出するためにTJFの事務所を訪れると、打ち合わせ中にコーヒーを持ってきてくれるのはいつも男性スタッフでした。偶然だったのかもしれませんが、それまで経験した職場ではいつもお茶出しは女性だったので、へえーっと思ったことを覚えています。

4

涙したあの日

フォーラムで働き始めて3年目。高校中国語教育に関する調査をまとめた報告書をつくることになりました。原稿を書くところから、一冊の本として出版するまでの工程に関わる、私にとってかなりチャレンジングな仕事でした。原稿の締め切りが近づくにつれて、キーボードをたたく手が止まり、だんだん煮詰まってきます。もう自分でもどうしたらいいのかがわからなくなり、誰もいないオフィスで何度も涙を流しました。その後先輩に助けられ、なんとか原稿が完成し、出来上がった本を手にしたときに流したのはうれし涙でした。



3

7

漢字一文字で表すと…

朗の主たる意味は二つ。その一つ、「明るくて快活である。声が明るくて大きい」はそのまま当てはまるとしています。もう一つ「清らかにすんでいて、くもりがなく、すがすがしい」はめざしたい私です。

朗

8

実は私、こんなでした

旦那様とは、大学時代からの付き合いです。今と違って(?)少しはかわいげがあると思いませんか。彼との付き合いもかれこれ35年になります。仕事を続ける私の最大の理解者です。



私が書いた記事

『国際文化フォーラム通信』に掲載していたコラム「日本の高校における中国語教育の現場から」の初回の記事です(コラムはno.22に始まり、「アジアのことばを学ぶ」に名前を変え24回まで6年間継続)。学校に取材に行き、写真を撮影し記事を作成する。しかも初めての署名記事でした。900字足らずの記事を作成するのに、何時間、いえ何日もかかりましたが、自分のなかでは今でもベスト1です。

1

サイコーのオフィスランチ

鳥取で食べた岩牡蠣。その日はバスで神戸へ向かう予定でした。出発時刻ぎりぎりになったとき、匂である岩牡蠣をどうしても食べたいと、いきなり駅デバまで走っていった上司。戻ってきた彼女が手にしていたのは、食べやすいように切ってもらった岩牡蠣と名産のちくわ、それにビール。美味しかった!!!

2



DeAGOSTINI刊

10

事務局長になったら、これをやります!

本当はTJFの事務所を東京以外に置ければいいだろうと思います……。それは難しいので、仕事の対象地域に期間限定のSOHOを構え、仕事をしながら自己研鑽ができる制度はできないかなと考えています。

5

私の偏愛

ロースハムの脂身。小さいころからハムが出るとまずここから食べていました。やっぱりあの白い部分が多いロースハムが最高です。理由はただ一つ、おいしいから。ただし、その積み重ねがここ最近のコレステロール値上昇につながっていることは間違いありません。でもやめられないんです。



©厚木ハム

喜

漢字一文字で表すと…

おもしろいねー、
楽しいねー、
おいしいねー、
で毎日生きてます。

7

事務局長になったら、
これをやります!

毎日、事務所へ来るのが楽しみではないくワクワクを実現する! 〈権限委譲〉+〈責任〉+〈評価〉の仕組みをつくって、さらに活気に満ちた組織をつくる。

10

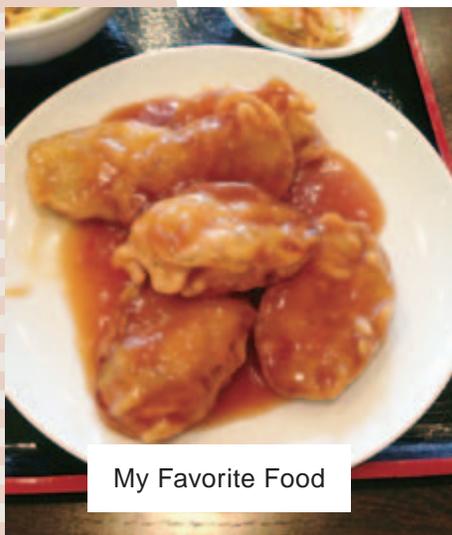
〇〇なら負けません!

物事をわかりやすくシンプルに説明すること。興味をもったらとことん追求すること。

9

サイコーのオフィ斯拉ンチ

平日のランチは、いつもの店のフツの定食が一番。ということで、僕のおすすめは事務所近くの中国料理店・永盛昌の炸茄盒(チャーチャーホウ)。中国の北の地方の料理で、見た目はサツマイモの天ぷらのよう。ガブリとかじると、皮、茄子、豚肉が層になっていて食感が楽しい。そして、真ん中には、なんと甘い餡子が隠れている。これが、後をひくおいしさの秘密!



2



★



★

藤掛敏也

私が書いた記事

『Takarabako』の Japanese Culture and Daily Life コーナーで、取材して記事を書いたのが良い思い出です。

1

▼まんが喫茶

渋谷のまんが喫茶へ取材に。写真のモデルにも。

<http://www.tjf.or.jp/eng/content/japaneseculture/27mangakissa.htm>

▼アキバから、世界へ!

アキバ系に、電車男。秋葉原ブームでした。

<http://www.tjf.or.jp/eng/content/japaneseculture/30akiba.htm>

涙したあの日

3 高校生が友だちをモデルにした写真とエッセイで参加する「高校生のフォトメッセージコンテスト」(1997～2006)を担当しました。毎年同じ撮影者とモデルで参加してくれるペアがいました。1年目は喜びと安心感に満ちた2人だけの世界、2年目はその世界が笑顔でいっぱいになりました。そして、3年目に届いた写真には、学園祭でモデルの子が撮影者とは別の友だちと笑顔で並んで写っていました。この写真を見たときに、僕はたまらずトイレに駆け込んで号泣しました。2人が抱えていた辛い気持ちが何だったのか僕にはわかりませんが、今は気持ちが晴れて、外の世界に向かって歩み始めているんだと、ずっと写真を見てきた僕にはすぐにわかりました。2人の成長を感じて、本当にうれしかったのです。フォトメッセージコンテストで実感したのは、誰かに認められることで生まれる力の大きさでした。



実は私、こんなでした

8 小学生のとき、リトルリーグで野球をしていました。体が小さくて、足が遅い、器用さもない。あまりのダメっぷりに親がコーチをかってでて、結局やめたくてもやめられない状態に。日曜日の朝、雨が降っていて練習が中止になるのが、本当にうれしかった！僕、野球に1mmも興味ないです。インドア派です。

誰にもいえなかった失敗

6 NHKの番組で「高校生のフォトメッセージコンテスト」の告知をしてもらえることになった。視聴者からの問い合わせのため、事務所に待機する段取りになっていたのだが遅刻。結局、放送が中止になってしまった。たくさんの方のご好意が僕の遅刻のせいで全部無駄になった。自分が情けなくて、恥ずかしくて、もうどうしていいかわからずに、床屋で頭を五分刈にした。それを見た家族から、「五分刈で反省なんて、子どものすることだ」と冷たくなじられた。ってことは、もう昔の話。

Coffee Time



私の偏愛

茶道家のような精神と科学者のような探究心で、コーヒーを淹れて飲むこと。お湯をわかして、豆を挽いて、自分と相方の2人分のコーヒーを淹れる。毎日の生活の中で欠かせない、もっとも心が落ち着く時間です。

びっくりした出来事

4 写真教材「であい：7人の高校生の素顔」の取材で訪れた北海道の農場では、カルチャーショックの連続でした。酪農の現場は過酷です。まず驚くのは、牛がすごく敏感で繊細なこと。牛舎に入ったとたん、巨峰ぶどうのような黒い目でいっせいに牛たちがよそ者の僕を見つめてきます。獣医さんが牛のお尻(?)に手をつっこんだりしている横で、「牛乳を出している牛はね、みんなメスで妊娠しているんだよ。人間が計画的に妊娠させているんだ。朝晩必ずお乳を搾ってあげないと牛は死んじゃうんだよ」などと聞かされて、頭は真っ白。生々しさに圧倒されて、取材どころではありませんでした。でっかいどー北海道。自分の人間の小ささを痛感しました。



室中直美



サイコーのオフィ斯拉ンチ

2

サイコーのランチにはまだ出会っていないのですが、事務所が西新宿の高層ビル街にあったころ、ちょっとイヤなことがあったとき、疲れているけどもうひと頑張り必要なときに、お隣のハイアットリージェンシーの「酒肴 omborato」で2,000円ほどのにぎり鮭を食べてプチ贅沢をしていました。新宿中央公園に面した大きなガラス窓のあるヌケのいい空間で、鮭を待ちながら外の緑をぼんやり眺めるのが好きでした。



誰にもいえなかった失敗

20代の終わりころ、ある大先生との会話中に、単なるノリで「〇〇先生って、△△界の黒幕ですよ〜っ!」と口走ってしまい、冷ややかな沈黙が流れたこと。こんなことを言っていた先生に何と答えていただきたかったのか!? おもしろいジョークだとしても独りよがりな勘違いをしていたのか!? 思い出すたびに恥ずかしさで悶絶します。寛大な先生は、もちろんその後も変わらず TJF の事業をサポートしてくださっています。

6



私が書いた記事

1

「であい:7人の高校生の素顔」(2001年発行)のマイストーリー。文章はまだまだ稚拙ですが、取材にも書くことにもこれまででいちばん時間とエネルギーを費やしました。高校生に密着して何度も学校や家に行き、ときには自宅に泊まってもらって(女子のみ!)インタビューしました。思春期の高校生たちへの取材は、相手から常に「この人は信用しても大丈夫か。正直に話をさせてかえって自分が傷つけられたりしないか」と探られている感覚がありました。かれらに安心してもらうために、まず自分自身のことをさらけ出して話すことにしました。取材が終わると毎回疲れ果てていましたが、そうしないと、かれらが大事に思っていること、人間関係や将来について揺れ動く気持ちなどを、こぼにしてもらえないと感じていたのです。ご家族や学校の先生、地域コミュニティの方など周囲の方々にもお話をうかがい、撮影にご協力いただきました。高校生から大人までさまざまな方たちと知り合い、お話をうかがうおもしろさを感じる一方、相手と関係を築きながら話を引き出す過程では自分の力不足を突きつけられて、たくさん落ち込みました。いろんな方と深く関わらせていただくなかで少しだけ成長したかな、と思います。

びっくりした出来事

あれは、たぶん1999年の秋。わたしとN事務局長は、マンハッタンの路上でタクシーを降りた。わたしにとって初めてのニューヨーク！ 趣のあるビルが建ち並ぶストリートにイエローキャブが走っていく。「映画みたいで素敵ですわねっ！ Nさんっ！」振り返ると、そこにN事務局長の姿はなかった。必死でN事務局長を探す。N事務局長は車と一緒にストリートのご真ん中を疾走していた……。いったい何が起きているのか訳がわからなかったが、とっさに追いかける。意外と（ごめんなさい）足が速いN事務局長。かつて短距離走の選手だったわたしもなかなか追いつけない。事業に多額の助成をしてくださっている団体のトップの方とのアポイントの時刻が迫っていた。焦る。すると、200mほど前方でN事務局長が走るのをやめた。信号待ちのタクシーに近づき、窓を叩いている。ほどなくタクシーのトランクが開いた。次の会合の資料が入ったキャリーケースを先ほど降りたタクシーに忘れていたのでした。後日、「室中さんったら、わたしのことを走って追いかけてくるのよお。ウフフー」っておっしゃっていましたが、そりゃ追いかけますよ！

4



実は私、こんなでした

「ことばだけでなく身体で表現できる人になりたい！」と、太鼓、琉球舞踊、沖縄の唄三線、日本の民俗芸能の踊り、中国舞踊などなどいろいろな手を出してきました。今は、夢やぶれ……。

8

涙したあの日

基本的に、仕事で起こるアレコレには、怒るか、笑うか、コーフンするか。あんまり涙は流しません。可愛げがなくてすみません。でも、最近では加齢で涙腺が緩んできたのか、交流プログラムの最終日に高校生たちが抱き合っただ泣きしている様子などを目撃するとウルウルしてきます。若いっていいですねー。

3

○○なら負けません！

地図 love 度。日本地図でも世界地図でも鉄道地図でもフライトマップでも、地形を俯瞰して眺めたり、細かいまちの名前を一つずつ追ったりしながら、何時間でもニヤニヤしていられます。



漢字一文字で表すと…

車でも電車でも飛行機でも船でも、移動している時間が子どもころから好きです（通勤、通学は除きます）。なぜだかわからないのですが、定期的に移動する時間をもたないと窮屈な気分になってきます。これまでの人生では、すべてを自分で選んだわけではありませんが、鹿児島→兵庫・大阪→東京→中国→東京と生活の場が移ってきました。また、「やりたいな」と思いついてしまったことは、行動に移さないといやなタイプです。



私の偏愛

眼鏡のフレームとレンズの間の細いミゾにたまった汚れを、紙片の角を使ってほじくり出すこと。紙片が絶妙の角度でミゾに入り込み、すっと黒い汚れの固まりがすくい取れたときは、一人、小さな達成感と喜びに浸ります……。

5

10

事務局長になったら、これをやります！

テクノロジーを駆使しつつ、自宅、カフェ、旅先など、さまざまな場所で仕事ができるようにしてみたいです！ 四六時中仕事をしたい、という意味ではありません……。

1

私が書いた記事

TJFのfacebookに投稿した記事のリーチ数が862人となり、初めて500を超えたことが自慢！
記事は、2013年4月に筑波大学で行われた講演会「グローバル時代の日本を生きる」の報告。国際共通語としての英語の重要性や目標などの講演内容に対して、学生から次々と鋭い質問が上がりました。その頼もしい姿に感心したのです。

びっくりした出来事

出張先のハルビンで乗っていたタクシーが対向車にぶつけられたこと。幸い怪我はしませんでした。それ以来、神経質に飛ばす運転手に遭遇すると、やんわりと「すみません、車酔いするのでゆっくり走っていただけますか」と言ったりします。嘘も方便、身の安全は自分で守らなきゃ。

4

6

誰にもいえなかった失敗

出張先の北京でアワビにあたって、顔がパンパンに腫れ上がり、2日間ホテルから一歩も出られず、上司の通訳もできなかったこと。生まれて初めてアワビアレルギーであることを確信しました。



長江春子



5

私の偏愛

福々しくて愛らしい豚のぬいぐるみや置き物ですね。幼いとき、父親がスポンジでとてもリアルな豚のぬいぐるみを作ってくれたことと関係しているかもしれません。玄関にもトイレにも豚の置き物、ベッドには豚のぬいぐるみが複数置いてあります。





8

実は私、こんなでした

大学1年生のときだけ所属していた競技ダンス部。新人戦では最下位で入賞しました。文化部系のサークルだと思って入ったら、バリアリアの体育会系でした。

9

〇〇なら負けません!

自慢じゃありませんが、方向音痴なら負けません! 地図が読めない女を地でいきます。大学に上がってからうすうす気づきはじめてんです。教室間の移動も自転車を利用しないといけないほどキャンパスが広くて、しょっちゅう迷っていたからです。大きなデパートで買い物をしようものなら、どのドアから入ってきたのかわからなくなりますし、行きはよいよい、帰りは怖い、ですね。車の運転も数年間していたのですが、向いていないことを自覚してからペーパードライバーに甘んじています。何度も走った実家までの道をどうしても覚えられないようでは話になりませんね。たかが方向音痴されど方向音痴。責められたり、笑われたり、同情されたりもしてきたけれど、一種の個性であると最近開き直っています。仕事をする上で不便極まりないのですが、綿密に行き方を調べたり、まめに道を尋ねたり、時間に余裕を持って出かけたり、タクシーを利用したりと工夫して生きています。はい、方向音痴です。以後、お見知りおきを!



涙したあの日

たくさんありましたね。初めて関わった「中国の中高校日本語教師研修会」の修了式、現地事務局を手伝ってくれたボランティア教師と研修会の成功を喜び、別れを惜しんだ涙。初めて招聘した中国の教育行政関係者との懇親会、日中のメンバーが家族のように溶け合う光景を目にし、こんなにも仲良くなれるのに……と複雑な思いで流した涙。引率したサマーキャンプの参加生徒が現地で急病から回復したときの安堵の涙……。この仕事は「心」とふれあい、「素」になれる機会が多い。そこに醍醐味があると思っています。

3

事務局長になったら、これをやります!

タイムカードをなくします。子連れ出勤を認めます。

10

漢字一文字で表すと…

なんで生まれてしまったのだろうと苦悩した10代、この先どこへ向かっていくのだろうという悲壮感と焦燥感に駆られた20代。悩む余裕もなく無我夢中で突っ走った30代。今この時、この場で、この日常を生きていることについてふと立ち止まって考えます。いろんな出会いがあったからここまで来られたんだなって。それらの出会いが「縁」であり、その「縁」によって私が生まれ、生かされ、鍛えられました。素直に感謝し、これからも委ねていきたい。随縁。



7

サイコーのオフィスランチ

釜寅のウナギの釜飯。TJF会合食の定番ですが、中国からのお客様にも評判がいいですね。私なりに分析しますと、温かい、味がいい、釜入りスタイルが珍しい、栄養満点、ボリュームあり、食材が日本っぽい、お吸い物のダシが濃厚、などが人気の秘密。

2

私が書いた記事

1

「くりっくにっぽん」ウェブサイトの「My Way Your Way」シリーズ。特に、東日本大震災の1年後に「福島へ」と題する詩を書いた中学3年生の良太くんに、詩に込めた気持ちや考えていることをインタビューした記事です。記事を読んだお母様から届いた手紙に、「因幡の白ウサギのガマの穂のようにふんわり包んで語りたくなる」と私のインタビューを評してくださいました。人の内面に迫るこのシリーズでは、インタビュー後に自分の力のなさを痛感し落ち込むことがしょっちゅうです。そんな私へのこれ以上ないほどのエールでした。



千葉美由紀



12
年目



誰にもいえなかった失敗

6

初めての中国出張。相手側のお招きでの食事。相手側の長にあたる人のあいさつがあり乾杯。次にこちらがあいさつをして乾杯。その後、歓談しながらの食事。いつもどおり、ビールをつがれると飲んでいました。宴もかなり終盤になった頃、「千葉さん、勝手に飲んでほめななんです。誰かが話をしてから乾杯をして初めて飲めるんです」
え——っ!! 早く教えて——っ!!
恥ずかしい、ごめんなさい、一人、赤面しました。



〇〇なら負けません!

テープ起こしでしょうか(ICレコーダー起こし?)。この号の「歴代事務局長インタビュー」では、合計13時間のインタビューを起こしました。1時間は大体1万字になります。このとき役立つのはフリーウェア「Okoshiyasu」(オヤジギャグな名前がたまりません)。皆さんもぜひお試しください。

9

サイコーのオフィスランチ

サイコーではないですが、自分のお手製弁当です。本を読んだり、ほかのスタッフと話をしたり、とてもくつろげる時間です。でも、たまにおいしいランチが食べたいなることも……。お誘いお待ちしております!

2

漢字一文字で表すと…

私の手はいつも暖かいです。「手の暖かい人は心が冷たいんだってね」何人に言われたことか……。そんなことないですよ。

7



3

涙したあの日

辛かった。20年史をついていた日々。特に巻末の資料編。膨大な資料との照合作業、データ整理。新宿の高層ビル26階。気づいたら広いオフィスにいるのは私ひとり……。デザインしてくれていたY氏と電話でやりとりしながら、2人とも意識が朦朧……。受話器を持ったまま意識が遠のく。忘れません、あのとき。

最初の感動の涙は、中国の日本語教師研修会に参加した先生の話聞いたとき。TJFの研修で教師としての誇りをもてるようになったと目に涙を浮かべる姿を見て、一つの研修がこんなに人の価値観を揺さぶって、自信を与えることがあるんだと衝撃をうけました。

事務局長になったら、これをやります!

中高校生のために学校外で学べる場をつくりたいです。

10



ここで白樺の枝を売っていた



実は私、こんなでした

大きな声ではいえませんが、大学でロシア語を専攻していました。写真はモスクワ市内のお風呂屋さんの前。手に持っているのは白樺の枝。サウナで身体をたたくのに使います。ときのトップはゴルバチョフ書記長。最初で最後のソ連訪問となりました。

8

私の偏愛

27を倍、倍していくこと。27の倍は54、54の倍は108、108の倍は……とやっていると、432になります。ここでまずニヤッ。そこからまた倍、倍を続けると、3456。心のなかでニンヤリ。27の快感を超える数字はないかと、2ケタの数字を見るとつい倍、倍してしまいます。



27,54,108.....

5



びっくりした出来事

オーストラリアの学会で「くりっくにっぽん」について発表するためにAさんと出張したときのこと。大学のコンドミニウムに日本語教育専門家のOさんとAさんと私の3人で泊まりました。Oさんが帰国する前夜、話し込んだ後シャワーを浴びたのですが、蛇口が閉まらない。パッキングの最中だったのにOさんは、にっこりと私の助けに応じてくれました。力いっぱい蛇口を回して、「あっ、動いた!」と言った瞬間、止まるどころか勢いよく熱湯が噴き出しました!! 何と蛇口ごと取れてしまったんです!! シャワー室のガラスの扉はくもり、室内は熱気ムンムン。水道栓らしきものを見つけたものの、熱湯が冷水になっただけ……。すぐに警備員が来てくれましたが、全身びしょびしょになるばかり。20分近く格闘した後、電話で仲間を呼びました。ニコニコ顔で現れた警備員は水道栓を探して天井裏やら庭やらあっちこち。その間にも隣のベッドルームに浸水しています。2人は管理人を呼び出し、私たち3人は隣のコンドミニウムに移ることに。その後、もう一人助っ人を呼び、無事水は止まりました。それにしても嫌な顔ひとつせず、嫌味ひとつ言わず、なんてオーストラリアは大きいんだ〜、と思った一件でした。それにしてもこの大騒ぎの間、びっくりともせず爆睡していたAさん。肝がすわってますっ。

4



7 風 4

漢字一文字で表すと…

だと思っただらいつの間になら風になってました。順風でも逆風でも高く昇ります。

森 亮 介



1 私が書いた記事
今日、これからあなたに読んでもらいたい、この記事がベスト1です。

びっくりした出来事

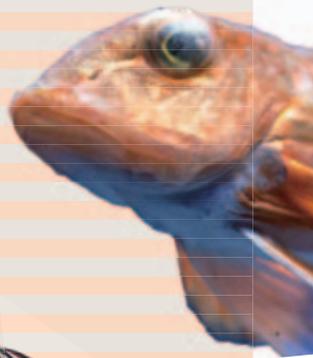
ある年のこと、「話してみよう韓国語」の会場下見で、韓国文化院ハンマダンホールを訪れました。当日は裏方として調整室などに入出入りするので、ホール担当者にも挨拶を、ということで会うことになりました。その前に名前や経歴などを聞きました。「ジョンさんは〇〇大学に音楽で留学に来た方で……」。なんとなく知り合いのような予感がしたので下の名前と演奏する楽器を聞くと、なんと韓国留学時代にオーケストラと一緒に演奏したことがある友人でした。「おい、チョルス(仮名)!!」と舞台からマイクで呼ぶと、「森ヒョン(=兄貴)? なんでこんなところに?!」と答えが返ってきて、みんなびっくり、感動の邂逅となりました。彼が留学で東京に来ていて、就職も日本で……という話は知っていたのですが、まさかこんなところで再会するとはね。再会の後は頻繁に会っているかという、そういうわけではなく、先日ソウルで行われた友人の結婚式に行ったときに受付でばったり会って「日本で会わないで、なんでこんなところで会うんだ」と言い合うような関係が続いています。



6 誰にもいえなかった失敗
通信機器の調子がおかしくて、事務所全体の電話、インターネットが不通になったことが何度かありましたが、実はそのうち1回は私の設定ミスが原因でした。ごめんなさい。もうしません。



〇〇なら負けません!
どんな写真でも、見栄えをよくしてみせます。





8

実は私、こんなでした

高校時代、吹奏楽部でトランペットを吹いていました。この写真は当時銀座シルバーパレードと呼ばれていた催しに参加したときのものです。曲はうちのバンド定番「セントルイスブルース・マーチ」。



私の偏愛

せんべいは、噛み砕くと破片が歯茎に刺さるような焼きたてよりも、多少シケているほうがよい。左様、封を切って1〜3日放置するくらいがよからう。歯を立てると「おや、これは湿気たかな?」と首を傾げなくなるくらいに堅く、勇気を持って顎に力を込めると「モリッ」とした感触とともに尋常ならぬ圧力から歯茎が解放される、その一連の流れがよい。「モソッ」ではない。物足りない。カタルシスが重要なのだ。世間ではシケたせんべいと、ぬれせんべい、ぬれおかきを同列に並べて論評する輩もいるが、あれはポークカツレツとカツ丼の具を較べるが如き愚かな行為であるので、混同してはならない。せんべい汁などもっての外である。あくまでせんべいをシケらせねばならぬ。シケ党とはそういう生き物である。



Senbei

5

サイコーのオフィ斯拉ンチ

先輩におごってもらうランチが最高です。アザーッス、ゴチニナリマス!

それだけじゃ寂しいので、オフィス周辺のお店をご紹介します。護国寺の入り口(駅ではなく寺の方)にある交番の隣、地味ですが正しい讃岐うどんが楽しめる「讃岐屋」がおすすめです。うどん脳になった日は、日替わりで色々なうどんを500円前後で出してくれる「試得(しっとく)うどん」を目当てに足を運んでみましょう。

2

3

涙したあの日

これまでいくつかの交流事業で、生徒の引率や、現場のサポートなど、参加した人びとと接することがありました。イベントが終わった後も、それぞれ日本語や韓国語などの勉強を続けていたり、「日本に留学にきた」といった電話を直接もらったときは涙がでるほど嬉しかったです。

事務局長になったら、これをやります!

海外のお客さんの接待に最適な美味しい店、酔いつぶれるまで飲みたくなるあの店などなど、職員の知識を総動員して全国食道楽マップ・データベースを構築するぞ。

10



2

サイコーのオフィスランチ

神楽坂のイタリアン「Azzuri」のランチ。驚異の量です。豚肉のグリル頼んだら、手のひらサイズのロースが、な、なんと3枚も!! さらにパンは食べ放題! なのに激安。腹ペコなとき、または誰かを驚かせたいとき、是非どうぞ!

10

事務局長になったら、これをやります!

1ヵ月の長期休暇が取れる職場にしたいです。



〇〇なら負けません!

ずばり猫知識です。捨て猫を見ごせない一家のため、小学生時代から実家にはいつも猫がいました。ご近所さまは「猫が異常に好きな家族」と勘違いし、毎年のように捨て猫が発生する羽目に。メロン用だろろうがジャガイモ用だろろうが、庭先に置かれた箱の中身はいつも子猫です。臍の緒がついたままの新生児(猫)には、牛乳を人肌に温めて飲ませ、親代わりの湯たんぽを設置し、一緒に遊んで情緒面を育み…… 何匹も立派に育て上げました。最盛期には20匹以上が暮らしていたのでした。猫人口が多すぎて、1匹が感染症にかかると全員に蔓延、糖尿病の猫には毎日インシュリンを打ち(これは母担当)……。しかし猫命は我が家の第一義だったので、働き出してから私の有給休暇はほとんど動物病院通いに捧げられました。そうして(何の役にも立たない)猫知識が蓄積!! でも悔いはありません!!

9



私の部屋を占拠した猫たち

柴田幹子



4

びっくりした出来事

以前の新宿オフィスの広大さ。入局時の面接であまりに閑散としているので「今日はお休みの方が多いのですか」と聞いたところ「これで全員です」と言われたとき。



5年目



漢字一文字で表すと…

現在いろいろなことで気が散って集中できないから。



実は私、こんなでした

大流行だったイタリア病に感染し、毎年旅行していた頃。本場の生ハム美味しい!! ワイン最高!! と飲み食いに明け暮れ(大学の学食にまで忍び込み)、いつもブクブクに太って帰国していたのです。

私が書いた記事

facebookで『外国語学習のめやす』の販売状況について報告した記事です。『外国語学習のめやす』3,000部が一気に事務所に運ばれたときには見上げるような山で、これが本当になくなるのかと心配でした。しかし、対面販売に留まらず、ネットでアジアや遠くはエジプトからもご注文いただくようになり、山も徐々に低くなってきます。同時に皆さまからのご支持が実感でき、大変嬉しく思っております。



クリスタルの象の置き物

誰にもいえなかった失敗

電話の受話器とコードを分解して掃除していたところ、電話が鳴り、受話器は本体から外れているのに「もしもし!! もしまし!!」と、しばらく受話器に叫び続けていたこと。

涙したあの日

年賀状の宛名ラベル作成のため、エクセルでデータ調整していたら、シート数が20以上に。あまりのデータ量にエクセルもワードも次々フリーズ。世間様はクリスマス、とっても楽しい日のはずなのに、仕事にならないわ、締切りは迫るわ、腱鞘炎になるわで、情けなくて泣きました。

私の偏愛

かなへび(かまちょろ)が好き。捕まえると目をつぶり仮死状態のようになりますが、呼吸のため薄い皮膚が波打ち生命を感じます。リラックスして日光浴している様子が大変かわいいのですが、東京では見かけないので寂しいです。



中野 敦



誰にもいえなかった失敗

恥ずかしい失敗はたくさんあるのですが、忘れられないのは、ある会場を研修会場・宿泊施設として予約していたのを忘れて、定められた期限を過ぎてのキャンセルの手続きになってしまったことです。結果、キャンセル料を支払うことになってしまいました。その上、人生ではじめて始末書を書くことになったのです。この失敗は忘れられませんね。組織の看板に泥を塗るような失敗はつらいですね。

6



私の偏愛

私にはお気に入りのコーヒーカップがあります。同じコーヒーでもそのカップに注ぐとコーヒーが一段と美味しく感じられるんです。私にとって、コーヒーには、美味しくいただける量と形があるんです。量は、カップの大きさになるわけですが、形で重要なのは、空気に触れる表面の面積です。このバランスが重要。それに、口にするカップの質感も大事ですね。今、一番のお気に入り自宅にあるカップです。みなさんにもそういうコーヒーカップありませんか？

5



私が書いた記事

月刊『英語教育』2013年8月号【リレー連載】多言語世界へのまなざし…【第5回】に寄稿した「外国語から『隣語』へ」です。記事は、英語の先生方に英語以外の言語あるいは広くことばというものに関心をもっていたかという趣旨の連載に掲載されたものです。主にTJFが取り組んできた中高生を対象とする日本の韓国語・中国語教育と韓国・中国の日本語教育の実践を紹介しながら、違う国の言語ではなく隣人の言語という考え方を、社会のグローバル化が急激に進むこのタイミングで発信できたことがよかったと思っています。

1

雲

漢字一文字で表すと…

いろいろな考え方や価値観、方法やツールなどから、できるだけ自由でいたいと思っています。雲には、決まった形がないことや場にしばられず自由な様子を、自分と重ねて(あこがれ?)選びました。

7

8



実は私、こんなでした

大学院時代、オーストラリア・メルボルンに留学していたころの写真です。大学の寮が満室で、シェアハウスで1年過ごしました。タバコをやめてもう10年以上になりますが、このころは庭先で南十字星を眺めながらの一服が最高でした!!

びっくりした出来事

外国語の先生を対象にした研修会が、私にとって TJF での最初の仕事でした。講師の先生はタバコが NG だと、繰り返し聞かされ注意していたにもかかわらず、用意されていたホテルの部屋が喫煙室だったときには、本当にあわてました。ホテル側のミスだったことがわかって、別の部屋が用意されることになりましたが、出だしからつまずいてどうしようかと思いました。気を取り直し、新しい部屋が用意されるまで、講師の先生たちと食事に出かけました。お店に入ってしばらくして、隣の席の人がタバコを吸いはじめたのには、正直「嘘でしょ〜」と目が点になりました。喫煙可のお店だったのです。すぐに店を出て、別の会場を探すのに必死だったことを覚えています。研修前日の出来事でした。

4

事務局長になったら、これをやります!

一定期間勤務したスタッフを対象に、専門性や技能の向上、自己啓発、あるいは創造的な休養、リフレッシュを図ってもらう制度(サバティカル制度)を導入します! 期間は半年~1年!

〇〇なら負けません!

出会いに恵まれていることでは誰にも負けません。その出会いにこれまでどれだけ助けられてきたことか。早く助ける側にまわりたいと思いつづけていますが、一向にその状況は変わりません。なんだかズルしているみたいで嫌なのですが、「そういう星のもとに生まれたんだから、受け入れなよ」と親しい友人に諭されます。最近では、本当に小さなことでも何か一つ、誰かのためにしようと思っています。「そんなの自分でできるからいい」と言われちゃうようなことしかできないんですけどね。

9

サイコーのオフィ斯拉ンチ

講談社の社食のサラダバーです。ご飯の量を減らして野菜を増やすよう管理栄養士から指導を受けました(おかずは食べてもいいということです)。小さなころから、おかずはそこそこにして、ご飯を食べなさいといわれて育った私には、なかなかできない食べ方です。野菜をたくさん食べるって大変ですよ。でも、サラダバーなら、毎日いろいろな野菜をおなかいっぱいいただけるんです。サラダバー LOVE です。

2

涙したあの日

2012 年度に行った「日韓中高生交流プログラム—SEOUL でダンス・ダンス・ダンス」は、韓国の新聞社から取材を受けるほど注目されました。取材された子どもたちにとって一番いい形の記事内容にするため、私と若手記者で締め切りぎりぎりまで書き直したことは忘れられません。子どもたちのことを一番に考え、政治的なことに利用されないように取材を受けることの難しさを痛感した出来事でした。

3



最後に、日韓両主催団体の長と、協力してくださった先生はじめ、関係者のみなさんから労をねぎらわれ、うれしかったのとほっとしたのがいっぺんにやってきて涙してしまいました。あれほど長い時間、涙を流し続けたことは過去になかったんじゃないかと思うぐらいです。打ち上げの席だったので、明るくしたかったのにどうにも止まらず、恥ずかしいやら申し訳ないやら……。



安藤まどか



1 私が書いた記事

『Takrabako』28号「お弁当—食べる楽しみ、伝わる温もり—」近年、「Bento」は世界から注目されるようになりました。「クール！（カッコいい）」と驚いてもらうのも悪くはありませんが、日本を、スゴイけれど理解できないエキゾチックな存在だと思わせてしまう日本文化紹介では心の距離は縮まらないと思うのです。そこで、海外の若い読者が「ワタシにもこんなカラフルでカワイイ Bentoが作れるかも!」とワクワクし、日本で暮らす人々を身近に感じられる記事をめざしました。

4

びっくりした出来事
最初の給与明細。



6

誰にもいえなかった失敗
出張中、目覚ましをかけずに寝てしまい、翌朝の待ち合わせ時間5分過ぎにホテルロビーから電話がかかってきて飛び起きたことがありました。3週間ひとりで北米5都市をまわって仕事をし、6都市目で上司2人に合流した翌朝のこと。顔を見てホッとするという相手でもなかったのですが、つい緊張が解けたのかも……。

5

私の偏愛

30センチ定規。職場のデスクはもちろん、なぜか家の各部屋に一本は常備。材質、厚み、端まで測れるタイプか、目盛りの種類（センチ/インチ/両用）など、「ハンサム」な定規を選ぶうえでの細かい偏愛ポイントあり。買うのはダイソーでもOKですが、意外とお土産屋が狙い目で、二十歳のときオーストラリア旅行で買ったエアーズロックの写真つき定規は今も現役です。典型的な血液型 O型人間にもかかわらず、DIYや紙工作、料理など、精度が質に影響する遊びではモノをびったり測ることに萌えるため、台所で使う計量スプーン&カップ、電子スケールなどもこだわって選び、使うたびにウツトリしています。

2

サイコーのオフィスランチ

オーストラリアの高校に日本語の授業を見学しに行ったとき、先生が、校庭の片隅に設置されたBBQグリルでカンガルー肉を焼いて迎えてくださったのが忘れられません。

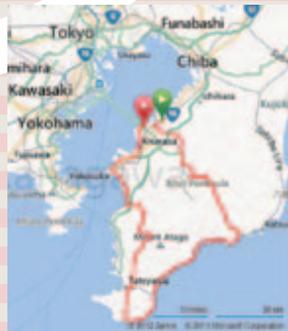


〇〇なら負けません!

「凝り性」

キャリア・アンカーが「チャレンジャー」なので毎年何か新しいことを始めますが、徹底リサーチ→思い切りよく実行→あまりの凝りように周りはドン引き→少し寂しい気持ちになる、その繰り返しです。去年はインド料理（作るほう）、今年は自転車。ゴールデンウィーク前に買ったロードバイクで8月は毎週末100キロ走り、9月に入って200キロを雨の中15時間で走破して達成感に浸ったあたりから、周囲のリアクションが苦笑&引き気味に。さらに、房総半島が走りやすくて好きだからと10月に千葉寄りに引っ越した時点で、優しくスルーされるように……。

I Love Cycling



事務局長になったら、これをやります!

ことばや文化、価値観の「ちがい」を楽しみ、ときに耐え、あるいは上手に受け流し、話し合い、ちがうからといって排斥したり暴力に訴えたりしない。当たり前のようだけれど、子どもたちの目に映る日本社会は、それとはほど遠いのではないかという焦燥感があります。いまの水口さんの歳になったとき、たとえば代々木公園で平和と寛容のフェスティバルをやるとか、多くの人の思いを集めて若い人たちの耳に目に届けていくような仕事をしていたら嬉しいです。いま手がけている「りんご記念日」寄付キャンペーンは、その最初の一步。ぜひ検索してご参加ください!

涙したあの日

ときどき、ぼろぼろ泣いていることがあります。若い人たちが、小さな出会いをきっかけに新しい世界へ踏み出していく瞬間に立ち会うと、こんな仕事に関わってよかったな〜と涙腺にくるらしい。

漢字一文字で表すと…

察し(おっ!) 観察し(へえー)
考察し(うーん) 推察し(ふーむ)
省察し(むむむ) 洞察し(ははあ)
彰往察来(ってことは…)
というサイクルを、頭の中でいつも静かに回しているから。かなりの引っ込み思案ですが(特に対人面)、猪突猛進型の人と組むと良きブレーキ&ブレーンになります。ラブコールお待ちしております♡



実は私、こんなでした

23歳。マザー・テレサの「死を待つ人の家」で1ヵ月手伝いをしたとき、洗濯物をトタン屋根に広げて干しているところ。



事務局長になったら、これをやります!